

高校公民プリント（過去問類似）  
源流思想と宗教 No.7

名前

得点

/11

問1 師であるソクラテスの死をきっかけに、現実の民主政に絶望し、感覚を超えた永遠不変の真理の領域を想定した。そして、現実世界の美しいものに憧れる知的・精神的な衝動を通じて、究極の「美そのもの」を認識することを目指す思想を展開した人物は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. ピタゴラス 2. ソクラテス 3. プラトン 4. エピクロス

問2 中世ヨーロッパにおいて、アリストテレス哲学をキリスト教神学に導入し、信仰と理性の調和を説いた思想家は誰か。彼は、神が宇宙を支配する永遠法と、人間が自らの能力によって認識できる自然法は矛盾せず、調和的に結びついていると考えた。

(2023年 全国公立入試 類似)

1. ピエール・アベラール 2. ロジャー・ベーコン 3. ドゥンス・スコトゥス 4. トマス・アキナス

問3 感覚に惑わされずに魂の目を真理に向けることの重要性を説き、肉体的な感覚から離れて事物の真の姿であるアイデアを探求すべきだとする思想を提唱した、古代ギリシアの哲学者は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. ピュロン 2. プラトン 3. フィロン 4. クリトン

問4 宋代に興った新しい儒学において、万物は宇宙の根本原理である「理」と、それを形づくる物質的な素材である「気」から成るとする理気二元論を大成した人物は誰か。彼は、人間には天理そのものである「本然の性」と、肉体や感情に左右される「氣質の性」があると説き、心を厳かに保ちつつ万物の理を極めることで私欲を克服する修養法を提唱した。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 孟子 2. 荀子 3. 朱熹 4. 程頤

問5 春秋戦国時代の諸子百家の一派で、儒家が説く家族愛などの差別的な愛を批判し、自他を区別せずにすべての人を平等に愛し、互いに利益をもたらさ合うべきであると主張した思想家は誰か。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 墨子 2. 莊子 3. 老子 4. 孟子

問6 7世紀初めにアラビア半島で新しい宗教を創始し、唯一神の前での信徒の絶対的平等を説いて、従来の部族対立や階級差を超えた信徒共同体（ウンマ）の形成を導いた人物は誰か。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. ムハンマド 2. ナーナク 3. ゾロアスター 4. カルヴァン

問7 初期キリスト教において、新プラトン主義などのギリシア哲学を援用して教義を体系化し、キリスト教神学の基礎を築いた最大の教父は誰か。著書『告白』や『神の国』で知られ、人間の原罪と神の恩寵の必要性を説いた。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. ヒエロニムス 2. テルトゥリアヌス 3. アンブロシウス 4. アウグスティヌス

問8 ヘレニズム時代に登場したある哲学の学派は、魂の平安を乱す原因となる政治活動や公的生活から退き、親しい友人と静かに暮らすことを理想とした。この学派の名称として最も適当なものを答えよ。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. ピュロン派 2. ストア派 3. エピクロス派 4. キュニコス派

問9 デルフォイのアポロン神殿に刻まれていた言葉で、ソクラテスが『自らの無知を自覚せよ』という意味に捉え直し、自らの知識や認知の状態を客観的に見つめ直す（メタ認知）ための出発点とした格言は何か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 万物は数である 2. 万物は火である 3. 汝自身を知れ 4. 万物は水である

問10 イスラームにおいて、信徒が日常生活で実践すべき最も基本的な義務の第一とされるもので、「アッラーのほかに神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒である」と口頭で証言する行為を何というか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 聖地巡礼 2. 日常礼拝 3. 信仰告白 4. 義務喜捨

問11 固定不変の実体を否定し、すべての事象は単独で存在するのではなく、原因と条件が相互に関わり合って生起するという、初期仏教における根本的な因果関係の法則を何というか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 涅槃 2. 無我 3. 四諦 4. 縁起

## 答え合わせ・解説 No.7

問1	答え 3 プラトン	ソクラテスの刑死に衝撃を受けたこの哲学者は、不完全な現実世界（現象界）を超えた、永遠不変の真理の領域であるイデア界を想定した。そして、現実の美しいものへの憧れ（エロース）を媒介として、魂がイデアを想起し、認識へと向かうプロセスを説いた。
問2	答え 4 トマス・アキナス	スコラ学を大成したトマス・アキナスは、信仰と理性の調和を説き、神の法（永遠法）と人間の理性によって捉えられる自然法は矛盾せず、調和的に結びついていると考えた。これにより、キリスト教神学とアリストテレス哲学の統合を試みた。
問3	答え 2 プラトン	ソクラテスの弟子であり、感覚世界を超えた真の実在であるイデアを理性的思考によって捉えるべきだと主張した。感覚的な事象をそのまま受け入れる態度を批判し、魂を肉体的な感覚から切り離して真理を探求することを重視した。
問4	答え 3 朱熹	宋代に理気二元論や性即理の説を大成し、朱子学の祖となったのは朱熹（朱子）である。彼は、人間が本来備えている善なる本性（本然の性）を、肉体や感情に左右される現実のあり方（氣質の性）から解放し発揮させるため、心を厳かに保つ「居敬」と万物の理を極める「窮理」を重視した。
問5	答え 1 墨子	儒家の仁（家族愛などの段階的・差別的な愛）を「別愛」として批判し、自他を区別しない無差別の愛である「兼愛」と、互いに利益を融通し合う「交利」を説いたのは墨子である。彼はまた、戦争を否定する「非攻」や、正義を望む天の意志に従うことを主張した。
問6	答え 1 ムハンマド	7世紀初めにメッカで神の啓示を受けた人物であり、唯一神アッラーの前での信徒（ムスリム）の平等を説き、イスラーム教を創始した。この教えは、従来の部族社会の身分や血縁を超えて、信徒同士が「兄弟」として連帯する共同体の形成につながった。
問7	答え 4 アウグスティヌス	アウグスティヌスは、4～5世紀に活躍した初期キリスト教最大の教父である。彼はプラトン哲学（特に新プラトン主義）の影響を受けながら、キリスト教の教義を理論的に整備し、神学の基礎を確立した。著書『告白』では自身の回心に至る歩みを綴り、『神の国』では歴史を「神の国」と「地上の国」の対立・相克として捉える歴史観を提示した。
問8	答え 3 エピクロス派	ヘレニズム時代には、ポリスの崩壊に伴い個人の内面的な生き方が模索された。その中で、快楽を最高善とし、精神的な苦痛のない平穏な状態を目指したのがエピクロス派である。彼らは、政治や公共生活に関わることが心の平穏をかき乱すと考え、公的な場から退いて親しい仲間と「隠れて生きよ」という信条のもとで静かに暮らすことを推奨した。
問9	答え 3 汝自身を知れ	ソクラテスは、デルフォイの神殿に刻まれたこの言葉を、単なる神への謙遜ではなく、自らの無知を自覚し、客観的に自己の知識の状態を見つめ直す（メタ認知）ための出発点として位置づけた。これは、自分の前提や偏見を疑い、論理的に検討し直す批判的思考の基礎となる。
問10	答え 3 信仰告白	イスラームの信徒（ムスリム）が果たすべき実践的な義務は五行と呼ばれる。その第一に位置づけられるのが信仰告白（シャハーダ）であり、アッラーが唯一絶対の神（唯一神）であること、そしてムハンマドが神の言葉を伝える最後の使徒（預言者）であることを公に宣言する。イスラームは徹底した一神教であり、アッラー以外のいかなる存在も神と認めず、またムハンマドも神ではなく人間（使徒）であると位置づける。
問11	答え 4 縁起	「これがあるとき、それがある」という相互依存の関係性を示す法則であり、ブッダが悟った世界の真理とされる。すべてのものは移り変わる（諸行無常）という教えの背景となる論理である。